

## トカラ列島の話 その2

ここトカラ列島は、私に地理学的研究の手法を教えてくれた忘れられない地です。なかでも諏訪之瀬島は、1973 年に大学生生活を始めたばかりの私が一般教養の「地理学方法論」の



諏訪之瀬島遠景

data:気象庁

授業で習った齊藤 毅教授に誘われて訪れた最初の地として印象的でした。入学からわずか4ヶ月足らずの他学部の私達にも声を掛けてくださり、3-4 年生対象の実習への参加を許可してくださいました。これを皮切りに先生とのお付き合いは、この歳になるまで続いています。

諏訪之瀬島での1週間の実習には同じ学部の地理学専攻の学友と一緒に参加しましたが、鹿児島大学をはじめ岡山大学、大阪教育大学、群馬大学、関西大学の教授も参加するという刺激的な調査チームでした。ここでは先生の薦めるまま「星砂」というロマンチックな名で知られる底生有孔虫の分布に関する調査を行いました。ただ大変だったのが、渡島への手段と生活でした。当時、十島村の所有する「第三としま丸」はわずか400ト足らずで鹿児島港を出た後、すべての有人島を経由していくため諏訪之瀬島までの所要時間は20時間(現在は航空路線もあり)、しかも船は口之島と中之島を除き、島には接岸できる港湾施設はなく、沖合で20人乗り程度の小さな舢はしけに乗り換える必要がありました。島へ運ぶ荷物と一緒に私達も数回に分けて舢に乗り込み上陸しました。しかも、ストロンボリ式噴火\*で知られる火山をもつ諏訪之瀬島の周囲は切り立った海岸崖になっており、上陸してからも集落まで急な坂道を歩いて上がる必要がありました。さらに、20名もの教員や学生を宿泊させる施設は島にはなく、公民館を借りて次の船が来るまでの約1週間、調査団全員での共同自炊生活が始まりました。

なお、諏訪之瀬島については、一昨日7月8日午前7時39分に火山噴火が観測され1800m上空まで噴煙が上がり、気象庁では今回の地震との関連が調査されているとのことでした。鈴木亮平が主演する劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～南海ミッション』(8月1日公開)の舞台こそ、ここ諏訪之瀬島なのです。

石飛 一吉

## 参考

\*噴火形態の一つで、火山弾や火山灰など噴火物が比較的穏やかに間欠的に噴火するもの。イタリアの火山に因む名称。